

■ 姫路市立水族館の概要

参考 1

(1) 概要・規模

姫路市立水族館は、手柄山中央公園の一角に山の上の水族館として、昭和 41 年 6 月に開館した。以来広く市民のレクリエーションの場および生涯学習施設としての役割を果たすとともに、水生生物に関する最新の情報を発信し続けてきた。老朽化のため平成 20 年 11 月から休館していたが、平成 23 年 7 月に「播磨の里地・里海のなかまたち」のコンセプトのもとリニューアルオープンした。そのコンセプトをもとに、播磨の池・川・海を展示する水族館、ふれあいと体験の水族館、地域密着の生涯学習施設を目指す。

- ① 敷地面積 8,210 m²
- ② 建物面積 4,458 m²
 新館 延 1,999 m²
 本館 延 2,459 m²
- ③ 観覧水槽
 新館 川や池にすむ生きものたち、希少水生生物、外来生物など淡水に生きる生きものを中心とした飼育展示とふれあいコーナーなどによるスキンケアフィッシュやリクガメなどの展示
 本館 播磨灘大水槽、ウミガメプール、タッチプール、砂地や磯にすむ生きものなど海産生物を中心とした展示や不思議な生態を持つ生きものたちの展示
- ④ 飼育施設 閉鎖循環ろ過方式、密閉ろ過方式、海水淡水の冷暖房設備、災害停電時の自家発電装置がある。
- ⑤ 飼育生物数（令和元年 4 月 1 日） 366 種 34,655 点
- ⑥ その他 館外に連絡用通路及びエレベーター、本館内にエレベーター、新館、本館にバリアフリー用のスロープ設置、姫路城観賞用双眼鏡設備、企画展示室、新館に水族館ギャラリー、本館屋上にビオトープ、本館 3 階に標本展示コーナーなどがある。

(2) 入館料（令和元年 10 月から料金改定）

区分	金額（1 人 1 日につき）			
	個人	30 人以上 100 人未満の団体	100 人以上 300 人未満の団体	300 人以上の団体
一般	520 円	460 円	410 円	360 円
中学生・小学生	210 円	180 円	160 円	140 円

備考 一般とは、中学生・小学生以外の者で 15 歳以上のものをいう。

(3) 利用状況

年度	有料入館者（人）				無料入館者 （人）	入館料収入 （千円）
	大人	小人	団体	総数		
H26	90,612	17,660	2,039	110,311	97,396	49,421
H27	92,649	16,288	1,358	110,295	104,112	50,039
H28	88,206	14,998	1,593	104,797	97,419	47,705
H29	90,591	15,427	1,784	107,802	100,826	49,675
H30	87,293	15,567	1,574	104,434	93,794	48,210

(4) 生涯学習活動の推進

生きものとのふれあい、観察を通して自然科学教育の普及、自然保護・動物愛護の啓発を行う。

- ・ タートルバンク（クサガメの卵を貸し出し、生命の誕生を見て、いのちの尊さを理解させる）
- ・ 春の磯生物観察会・ウミホタル観察会の実施・干潟の生きもの観察会
- ・ 紙粘土工作教室・貝殻工作教室
- ・ えさやりタイムの実施
- ・ 飼育員による実験・解説コーナー（アクアラボの実施）
- ・ リクガメとのふれあいタイムの実施
- ・ 水族館サポーター・ひめすいボランティアの募集・市民ギャラリーの創設
- ・ 身障者向けのアクアキャラバンの実施
- ・ 機関誌「山のうえの魚たち」等刊行物の教育施設などへの配布

(5) 調査研究活動

希少淡水魚、タガメ他水生昆虫、ウミガメ、カエルなど瀬戸内海や播磨平野の池や川の水生生物の生態調査を続けており、自然の大切さを広く啓発するために、それらの結果を展示に反映させる努力をしている。また、失われつつある自然の回復を図っていくビオトープ造りを各地で指導している。